

1 「くるめ授業スタンダード」を活用した授業改善の取組

(1) 本市の現状

令和元年度の全国学力・学習状況調査において、「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童・生徒は約30%と、大変低い結果でした。また、「授業に主体的に参加することができるか」「話し合う活動で自分の考えを広げ深めることができているか」「(算数・数学の学習で)きまりの根拠を理解しようとしているか」といった質問に対し肯定的に回答した児童・生徒の割合も、全国平均より低い結果でした。

このような結果になった要因として、「教師が一方的に知識を教え込むような講義的な授業になっているのではないか」「児童・生徒が自分の考えをつくったり、考えの根拠を説明し合ったり、友達の説明を聞いて自己の考えを付加・修正したりするような学習活動が不足しているのではないか」といったことが考えられます。

そこで、国が示す「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を踏まえつつ、これらの授業実践上の課題等を解決するための「くるめ授業スタンダード」を作成することとしました。

(2) 本取組の目的

文部科学省が示す学習指導要領においては、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な資質・能力を「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」としており、これらの3つの資質・能力をバランスよく育成することが、学校教育における大きな目標として掲げられています。

また、3つの資質・能力を育成するためには、日々の授業において、「何を学ぶか」という学習内容に加えて、それらを「どのように学ぶか」という学び方も重要であることが示されています。

令和2年度には小学校、令和3年度には中学校で全面実施される学習指導要領においては、この「どのように学ぶか」という点について、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」という方向性が示されています。そして、この「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点の具体化を図るために、久留米市がめざす授業像として作成したのが「くるめ授業スタンダード」です。

(3) 具体的構想

「くるめ授業スタンダード」は、毎日の授業を主体的・対話的で深い学びとなるように見直すポイントを示したものです。ポイントは以下の3つです(図1)。

【ポイント①】「問題解決的な授業展開」

児童生徒主体の授業づくりのために「授業展開の7ステップ」を大切にします。

【ポイント②】「子どもの思考を促す発問」

児童生徒が授業の中でしっかりと思考を働かせ、また発展させていく授業にするために、教師が行う発問の工夫を大切にします。

【ポイント③】「子どもの姿で授業評価」

授業においては、児童生徒が「めあてや見通しを持つことができているか」「自分の考えやその根拠を持つことができているか」「対話を通して考えを広げ深めることができているか」「本時のめあてを達成することができるか」といった視点で児童生徒の発言や表情、ノート等を絶えず観察し、的確な支援や次時の授業構想を行うことを大切にします。

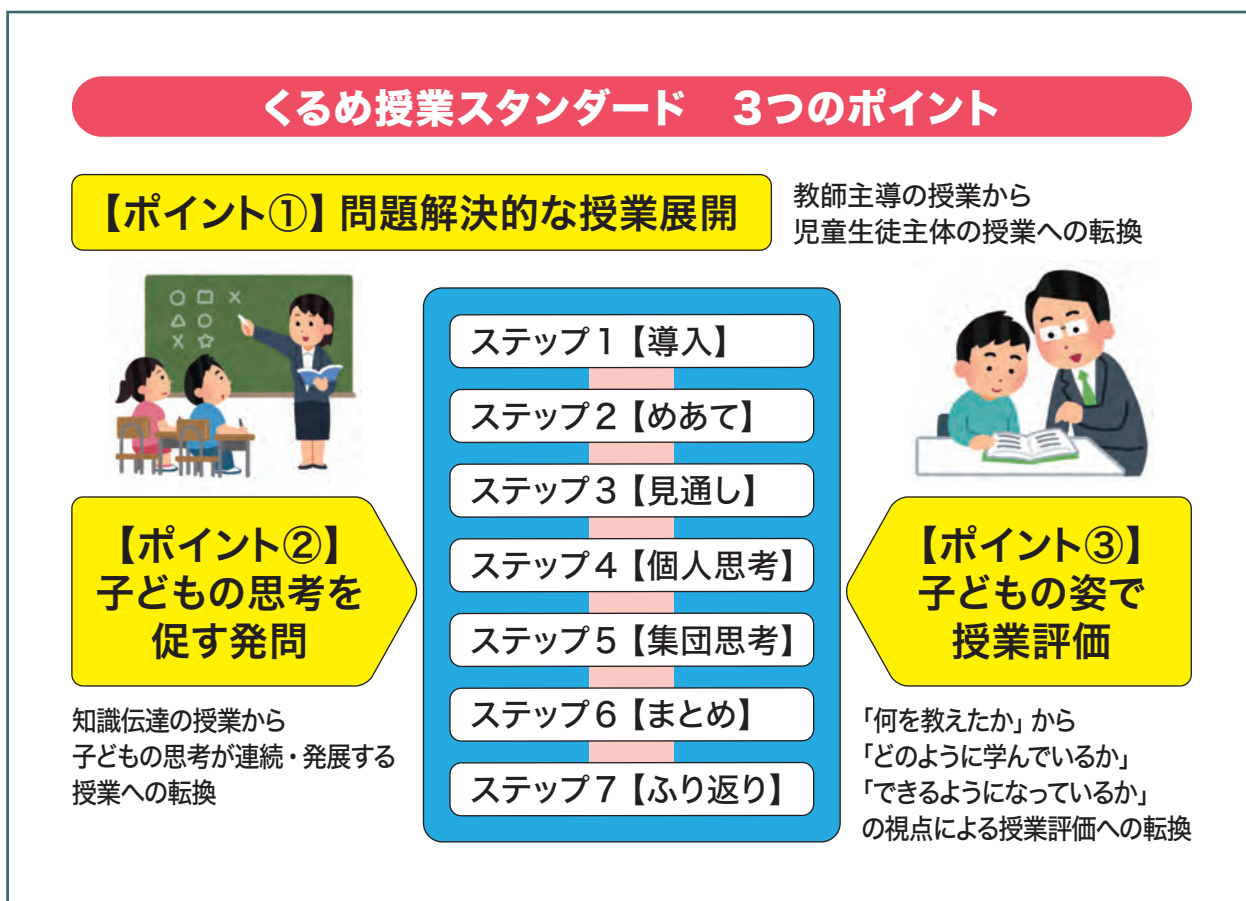


3つのポイントを踏まえた授業例（図2）では、「具体的な教師の発問例」や「めざす子どもの姿」の詳細を示し、具体的な1時間の授業をイメージできるようにしています。本プランでは、「くるめ授業スタンダード」の3つのポイントや具体的な授業例を、授業改善の視点として日常の授業に活用することを想定しています。

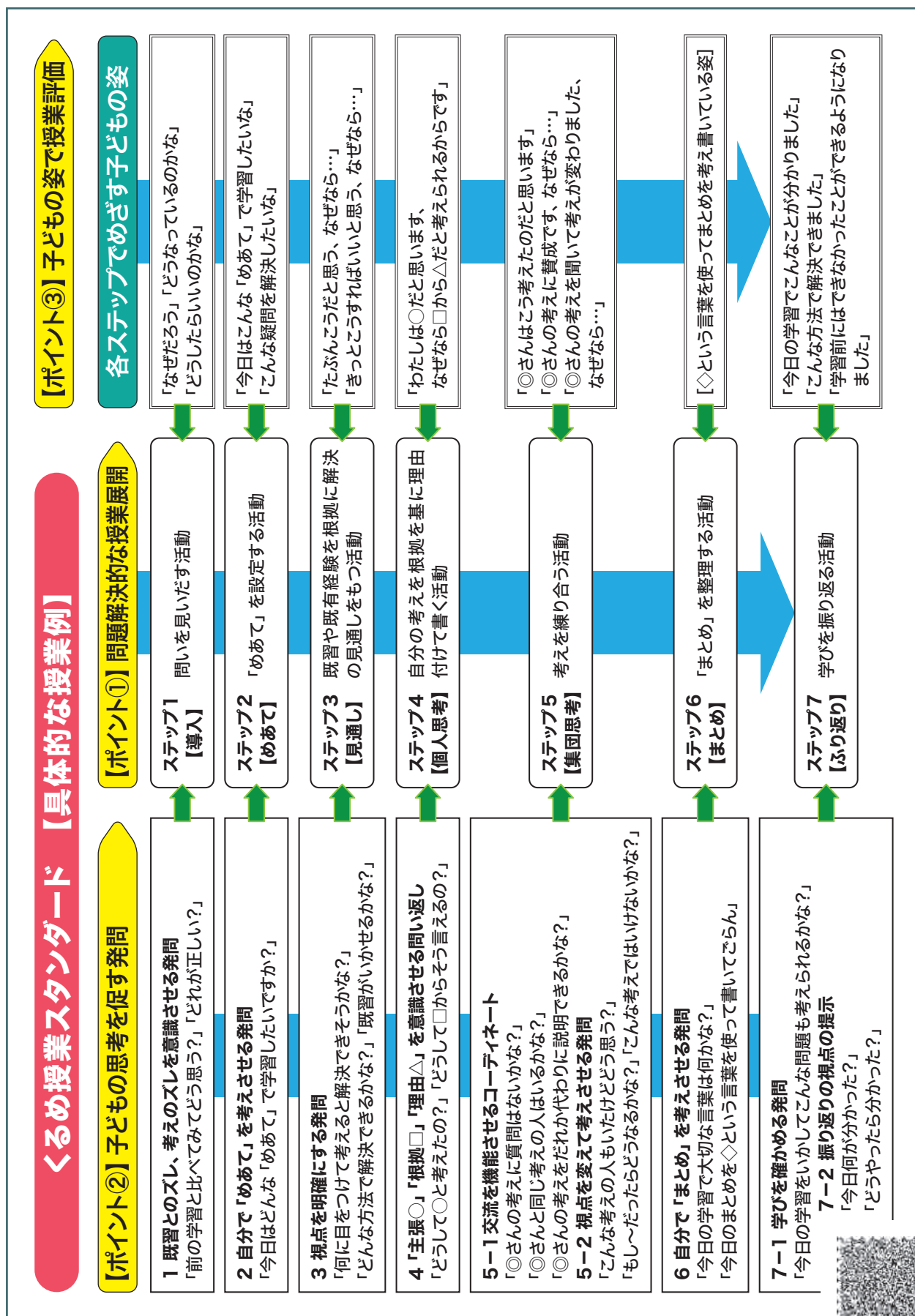
例えば、福岡県学力向上推進拠点校事業の研究指定を受けた牟田山中学校では、全教職員で取り組む「牟田山流 学習の極意」（図3）を作成して全教科の授業改善に活用されています。これは、「久留米授業スタンダード」のステップ4～7の取組を生徒の実態に応じて焦点化するとともに、学習プロセスにおけるめざす生徒の姿も明確化されています。

また、久留米市教育委員会の研究指定を受けた高良内小学校では、算数の基本的な学習過程（図4）を作成して算数科の授業改善に活用されています。これは「くるめ授業スタンダード」と同様に、算数科の特性を踏まえた問題解決的な展開と、その中での教師が行う指導や支援が明確化されたものになっています。

（図1）



(図2)



(図3)

傘田山流 学習の極意

目標：一人ひとりがいろいろな場面(授業)で
自分の考えを表現できる力をつけよう!!

〈授業の流れ〉

個人で考える①

- 自分の考えをもと。
- 知っている内容を
使って考えよう。

体験・経験
これまでの学習
他教科で学習したこと

小集団での交流

- 自分の考えを表現しよう。
- 友達の考えを知ろう。

みんなの意見を比べると…
私の考えは…

個人で考える②

- 自分の考えを見直そう。
- わかったことを使ってみよう。

自分の考えに
友達の意見を
取り入れて…

友達と交流したことで、最初に比べて分かるようになった!

学習の振り返り

- 「できた」「できなかった」「参考になった」を確認しよう。
- 身の回りや他教科との関連を考えよう。

(図4)

研究主題及び副主題

数学的に考える子どもを育てる 算数科学習指導

～「学び合い」の考えを取り入れた学習過程の工夫を通して～

こんな子どもの姿をめざします

子どもたちは、新しい問題場面に当たったとき、「今までに学習したことは使えないか」「もっと簡単に解決できる方法はないか」と、その解決の見通しを既習の知識や技能をもとにつくり出します。そして、問題解決のために必要な学び方(方法)を選択し、試行錯誤しながら自分の力で考えを導き出します。その考えを友だちと比較・検討することで、新しい数学を身に付けることができます。この新たな数学は、次の問題解決では道具や手段となります。

学び合いでは、子どもが互いに教え合って、問題を全員が解決できることを目指します。問題解決の場面では、子どもの「分りたい」という気持ちを大切に、友だちに関わり、教えたりすることを大切にします。教師は、「一人も見捨てない」「みんなができる」ことを語り、友だちに連んでかわる姿を称賛します。

学習過程のイメージ

既存の知識や技能

自力解決

比較・検討

新しい数学の獲得

つかむ

見通し
問題を抱える
考え方を整理する
方法を選択する

つくる

追究
自力解決する
自分なりの考えをつくる

深める

表現
解決方法を
教え合う
共に考える

まとめる

評価
学び(内容・方法)を
振り返りまとめる

「一人も見捨てない」「みんなができる」学び合い
(こはを通して「考える」ことを基盤にした学習)

「学び合い」の考え方を積極的に導入し、見通しをもって筋道を立てて考察する「数学的に考える子ども」を育てていきます。

久留米市立高良内小学校

⑤ 基本的な学習過程を明確にして指導します

段階	各段階での指導のポイント
つかむ	<p>① めあてをつかむ</p> <p>① 必要・興味・関心 ② めあて</p> <p>① 既習の事象 ② 既習の方法</p> <p>→ 問題場面 → 友達の考えとのスレ「どうして?」 → 考えや方法の不十分さ → 「簡単に」「分かりやすく」 (自分の言葉で書ける)</p>
つくる	<p>② 解決の見通しをたてる</p> <p>① 自力解決の見通し ② 方法の見通し ③ 結果の見通し</p> <p>()に目をつけて、()の考えで ()を使って、()に表して ()よりも大きくなる、およそ()くらい</p>
深める	<p>③ 自力解決をする(学び合い)</p> <p>① 具体物の操作、半具体物の操作、絵図等に働きかける。 → 自力解決の場と時間の確保、算数的活動の重視 ② 学習ノートに自分の考え、その説明を書く。 → 一つの考えができれば、違う考えをつくる。</p> <p>● 学習用具の準備 ● 学習ノートの工夫 ● 表現の仕方の指導 ● 誰かが答えを出す手立て</p>
深める	<p>④ 比較・検討する(学び合い)</p> <p>① 自分の考えを出し合い、それぞれの考えを知る。 ② 観点を明確にして比較・検討する。 (例)【系列化】 ○わかりやすい(明確) ○かんたん(簡潔) ○いつでも使える(一般性) → 他の事象にあてはめさせる (※数値の単位・種類)</p> <p>● 机間指導で子どもの考えを見取り、原語的に指名 ● どんな考えかを仮置する→考えの価値を明確に ● 教師が仲介を明確にもって比較・検討させる 【独立化】… それぞれの考えのよさを明確にする 【系列化】… 一番価値ある考えを明確にする 【統合化】… 一般化した考えに至る(公式) 【最適化】… 既習の考えとの関係を明確にする</p>
まとめる	<p>⑤ まとめる(学び合い) (※5分間以上の時間を確保する)</p> <p>① 学習を振り返り、分かったことをまとめる。 ② 活用問題を解き、見いだした数学のよさを味わう。(※数学的価値付け) ③ 本時学習の自己評価をする。</p> <p>● これまでの学びを自分で振り返り、伸びを味わうことができるように。 ● 観点を整理して今後の方向をつくり自ら学びを発展できるように。 ● 考えを深めた過程がわかるノートを。</p>

2 「くるめアクションプラン」を活用した不登校・いじめ問題対応の徹底

(1) 本市の現状

いわゆる不登校とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）」と文部科学省は定義しています。年度ごとに連続または断続した欠席日数が30日以上の児童生徒数を計上しています。

また、欠席日数は少なくとも、遅刻・早退・別室登校の頻度が多い子どももおり、これらの子どもが長期に欠席していく例が多数あります。そこで国立教育政策研究所では、次のような換算式を示しており、30日以上になると「不登校相当」としています。

$$\text{欠席日数} + \text{保健室等登校日数} + \{(\text{遅刻日数} + \text{早退日数}) \div 2\}$$

一度不登校状態になると、学校への復帰は難しいという実態があるため、福岡県でも上記の換算で15日以上になった場合は、長期に欠席する可能性のある不登校兆候児童生徒として、早期発見、早期対応に努めています。

そこで本市では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを学校や教育委員会に配置するとともに、いじめや不登校等の生徒指導上の諸問題への対応や困難を抱えた児童生徒が置かれた環境への働きかけができるよう「くるめアクションプラン」を作成することとしました。(図5)

(2) 本取組の目的

不登校に関する学校における取組には、大きく二通りあります。

一つは「未然防止」で、すべての児童生徒が、学校が楽しいと思う「魅力ある学校づくり」を行う教育的予防の働きかけです。これは、学校の教育活動全体を通じて行うものです。

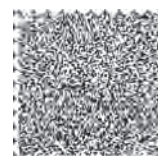
二つは「初期対応」で、上記の換算式等を参考にして不登校兆候を示した児童生徒に個別に対応する治療的予防の対応です。また、不登校になった児童生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもつことも大切です。

本取組では、毎日の遅刻・欠席に適切に対応する連絡・指示システムを構築することで、不登校兆候への「初期対応」を確実にすることやいじめの早期発見など児童生徒の問題兆候を把握すること、不登校になった児童生徒に対するきめ細やかな支援を継続していくことを目的としています。

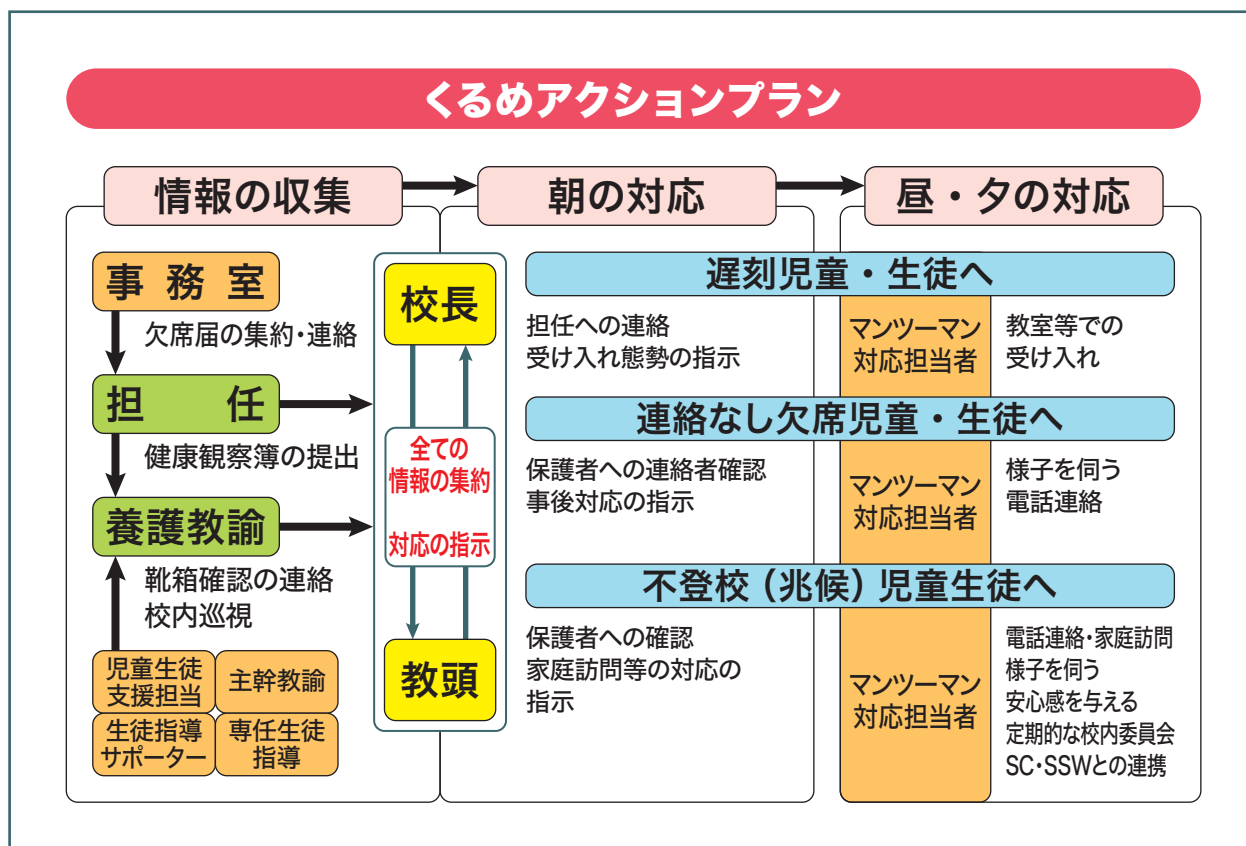
また、登校時から子どもたちの状況等を組織的に把握することで、子ども達を取り巻く貧困や虐待といったサインをいち早く感知することができ、関係機関との連携にも効果的に取り組めるものと考えます。

(3) 具体的構想

「くるめアクションプラン」は、毎日の遅刻・欠席に適切に対応する連絡・指示システム(図5)と、いじめ問題や不登校になった児童生徒に対するきめ細やかな支援を行うチェックリスト(図6)で構成しています。「くるめアクションプラン」は福岡県の重点課題研究指定を受けた西国分小学校や諏訪中学校での取組を踏まえて作成したものであり、いじめや不登校の解消と予防について、各学校の状況に応じて、独自のアクションプランが作成されることを目指しています。



(図5)



(図6)

- ### 欠席が長期化している児童生徒へのチェックリスト
- 児童生徒が学級の一員として班や係などに所属している。
 - 児童生徒の机・イス・靴箱・個人棚などがいつでも使える状態にある。
 - 学級での児童生徒の状況等の級友への伝え方を、本人や保護者と決めている。
 - 配布物等の届け方を本人や保護者と決め、確実に届けている。
 - 学校・学級の様子を定期的に伝えている。
 - 学校行事等で、児童生徒が参加しやすい配慮をしている。
 - 定期テスト等を受験しやすいよう、別室等の環境づくりをしている。
 - 進学等に向けた相談や指導を行っている。
- } 各学校で実態に応じて設定する。
-



人権・同和教育の視点に立った指導のポイントチェックリスト

日常の教職員の言動や学校・学級の雰囲気といったものが、児童生徒の豊かな人権感覚、そして人格の形成に大きな影響を及ぼしています。

人権・同和教育の視点に立ち、誰一人も見失わないような教育実践や児童生徒が自らの大切さを認められていることを実感できるような指導について、自分自身の取組を振り返りましょう。



人権が尊重される「学習活動づくり」

①	授業者が一方的に進めるのではなく、児童生徒が共同で学習を進めることができている。	<input type="checkbox"/>
②	一人ひとりの児童生徒が主体的に話し合ったり、発言したりできるような工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
③	授業中、児童生徒が一人ひとりの発言に耳を傾け、うなづいたり、付け加えたり、自分の意見を返したりする指導の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
④	実際に見たり、ふれたりする具体的な活動や体験を通して、問題を発見したり、その解決方法を探求したりするなどの場の設定を行っている。	<input type="checkbox"/>



人権が尊重される「人間関係づくり」

⑤	日記や生活ノートを通じて、児童生徒一人ひとりの興味・関心や願い、悩み等を理解しようとしている。	<input type="checkbox"/>
⑥	児童生徒の言動や友達関係等で気になることがあれば家庭訪問を行い、その背景を理解しようと心がけている。	<input type="checkbox"/>
⑦	協力して活動する、みんながあいさつし合う等、仲間づくりのための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>



人権が尊重される「環境づくり」

⑧	授業中や日常の場面で、児童生徒を呼び捨てにしたり、感情的になり威圧的な言葉、差別的な言葉を使ったりすることなく指導している。	<input type="checkbox"/>
⑨	児童生徒の乱暴な発言や相手をさげすむような発言は見逃さず、相手を大切にす言葉遣いを指導している。	<input type="checkbox"/>
⑩	児童生徒の作品が丁寧に掲示され、教師のコメントや友達の肯定的なコメントが添えられている。	<input type="checkbox"/>
⑪	児童生徒と一緒に掃除等をしながら、みんなで働く楽しさや、学校をきれいにする喜びを日ごろから共に味わっている。	<input type="checkbox"/>



困難さのある児童生徒に対する支援の充実のための8ステップ

Step1 全ての児童生徒に質の高い効果的な授業の実施 PDCA サイクル

主体的・対話的で深い学びの実現、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善

Step2 児童生徒の困難さへの気づき（担任、保護者など）

Step3 困難さに応じた個別の支援 PDCA サイクル

個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用※個別の支援開始時（Step3）から継続的に

- 担任、担当者、支援員等による個別の支援
- 自立活動の内容を踏まえた授業改善及び支援の提供

Step4 困難さに応じた個別の支援 PDCA サイクル

- 担任と同学年、特支Co等関係者間の連携による協働的な支援

Step5 校内支援委員会等による支援方策の検討 PDCA サイクル

- 困難さに応じた個別の支援、校内支援体制の方向性等について
- 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成について
- ケース会議等の必要性について

Step6 ケース会議等の場による検討（支援方策、支援体制、教育課程等）

- 学校関係者：校長、教頭、主幹教諭、特支Co、担任、元担任、同学年生徒指導担当者、特別支援教育支援員など
- 関係機関等：SC、SSW、医療機関、療育機関、福祉施設等の関係者
児童が過去に通っていた幼稚園の先生、特別支援学校教育委員会など
- 保護者

Step7 対象児童生徒の詳細な実態把握による支援の検討

- 専門家（医師、言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士等）への接続
- 学校外にあるリソースの活用
 - ・福岡県巡回相談の活用
 - ・特別支援学校センター的機能の活用
 - ・子ども発達相談教室の活用
 - ・リエゾンドクターの活用
 - ・学校問題解決支援事業の活用

Step8 対象児童生徒の将来を見据えた今後の支援体制の構築

- 困難さに応じた個別の支援、校内支援体制の方向性等について
- 個別の指導計画、個別の教育支援計画の修正と活用について
- 今後の計画的な校内支援委員会等の必要性について
- 教育課程の見直し→必要に応じて、「学びの場」の検討（就学相談会の実施）

保護者との

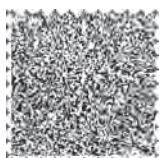


日常的な連携

SC・SSW等の



計画的な活用



「キャリア教育」の実践のためのチェックリスト

項目	内容	チェック
年間計画	1. どの授業で①どの資質・能力を育成するのか、②どの「意識」や「体験」、「学び」をつなげるのか、③キャリア・パスポートを活用するのを確認している。(資料1.2)	<input type="checkbox"/>
	2. 年度終わりに、キャリア教育の位置づけ、つながり、GTの活用等を振り返り、年間指導計画(資料2)をよりよいものに改善している。	<input type="checkbox"/>
授業場面	1. 導入等に、年間指導計画(資料2)に位置づけられた「意識」や「体験」、「学び」をつなぐ活動を位置づけている。	<input type="checkbox"/>
	2. 「あなたが〇〇さんだったらどうする？」等の課題の解決に対して児童生徒に自分なりに判断させる場面を設定している。	<input type="checkbox"/>
	3. 職場体験等の体験活動の際に、児童生徒が追究する課題を明確に持つことができるような事前学習を設定している。	<input type="checkbox"/>
	4. 交流場面や振り返りの場面において、児童生徒が自分のことを伝えたり、お互いのよさを認め合ったりする場面を設定している。	<input type="checkbox"/>
	5. 終末等に、本時の「意識」や「体験」、「学び」と社会生活や将来の仕事へのつながりを児童生徒に考えさせたり、教師が紹介したりする場面を設定している。	<input type="checkbox"/>
キャリア・パスポート	1. キャリア・パスポート(1学期)を活用して、児童生徒に前学年での成長を振り返らせ、更に成長を目指す意識を持たせている。 ※小学校低学年は1学期末に実施	<input type="checkbox"/>
	2. 学校行事後等にキャリア・パスポートを活用して、児童生徒に自分を振り返らせ、自己の成長を蓄積させている。	<input type="checkbox"/>
	3. キャリア・パスポート(3学期)を活用して、児童生徒に自分の成長や成長を目指して取り組んだ自分の姿について振り返らせている。	<input type="checkbox"/>
	4. キャリア・パスポートへの保護者等のコメントを活用して、児童生徒の意欲や成長を認めたり、無自覚な成長の姿を付加したりする対話や言葉がけをしている。	<input type="checkbox"/>

資料1: キャリア教育によって育む資質・能力

人間関係形成・社会形成能力

他者と協力・協働して、今後の社会を積極的に形成する力

自己理解・自己管理能力

自らを律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

基礎的・汎用的能力

課題対応能力

様々な課題を発見・分析し、処理し、解決することができる力

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、主体的にキャリアを形成していく力

資料2: キャリア教育年間指導計画(小4年の例)

学期	月	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	各教科
1学期	4	・学期の目標を決めよう【人】【関】 ・1年間のめあてを立てよう【関】			
	5			・お母さんの請求書4-(3)【キ】	・ゴミのしまつと活用(社)【人】【自】
	6		「意識」をつなぐ	・うれしい6着1-(2)	
	7	・学期末大掃除【人】【自】			
2学期	9	・運動会【人】【キ】【関】【バ】	・共に生きる【人】【キ】【関】	・やさしいなみだ2-(2)	
	10				
	11	「体験」をつなぐ	・〇〇小の伝統を受け継ぐ【人】	・見えない名札4-(6)【人】	・物語を読んで感想を書こう【国】【自】
3学期	12	・もちつき大会【人】【キ】			
	1		「学び」をつなぐ	・お父さんの仕事4-(2)	
	2	・学習発表会【関】【キ】	・2分の1成人式をしよう【自】【関】【キ】	・自分らしさってなんだろう1-(6)【自】	・伝統的な工業の盛んな地域(社)【人】【キ】
	3	・1年間を振り返ろう【関】			

【人】=人間関係形成・社会形成能力、【自】=自己理解・自己管理能力
【関】=課題対応能力、【キ】=キャリアプランニング能力、
【バ】=キャリア・パスポート

参考：「変わる!キャリア教育」文部科学省、「くるめキャリア教育スタートブック vol.1,2」久留米市教育センター



(説明用) 令和○年度 ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する○○学校プラン

《学校の教育目標》

〈本年度 学校の重点目標〉

本年度、どのような子どもの育成を目指すのかを具体化し、そのために育成する資質・能力を「つくる力」(知識・技能)、「つなぐ力」(思考力、判断力、表現力等)、「つらぬく力」(学びに向かう力、人間性等)の点から記載する。

【つくる力】

【つなぐ力】

【つらぬく力】

学びをつなぐ授業

- ① 学力向上プラン「視点2」に記載
- ②
- ③
- ④

①の「くるめ授業スタンダードを活用した授業改善の取組」は、学力向上プラン「視点2」に記載する。
 ②は「個に応じた教育活動充実の取組」、③は「教育ICT活用・情報教育推進の取組」、④は「外国語教育充実の取組」を記載する。
 なお、()には、それぞれの取組の「取組指標」を記載する。また、②から④の中で今年度の重点を決め、重点取組には「成果指標」を記載する。
 ※「成果指標」は教育振興プランの成果指標を参考に設定する。

笑顔の先生

- ① 学力向上プラン「視点4」に記載
- ②

①の「教師力向上の取組」は、学力向上プランの「視点4」に記載する。
 ②は「業務改善の取組」を記載する。②は「取組指標」と「成果指標」もあわせて記載する。
 ※成果指標は教育振興プランの指標を参考に設定する。

協働する学校・家庭・地域

- ① 地域学校協議会プラン「提言①」参照
- ② 地域学校協議会プラン「提言②」参照
- ③ 学力向上プラン「視点4」に記載

①は地域学校協議会プランの「学力面の提言」に、②は地域学校協議会プランの「生活面の提言」に記載する。③の「中学校区人権のまちづくりの取組」については、学力向上プランの「視点4」の小中合同研修会に記載する。

楽しい学校

- ①
- ②
- ③

①は「『くるめアクションプラン』を活用した不登校・いじめ問題対応徹底の取組」、②は「学校安全への取組」、③は「仲間づくりの視点を大切に活動充実の取組」を記載する。
 なお、()には、それぞれの取組の「取組指標」を記載する。また、①から③の中で今年度の重点を決め、重点取組には「成果指標」を記載する。
 ※「成果指標」は教育振興プランの成果指標を参考に設定する。

【体力向上】

- ①
- ② (「1校1取組」運動)
- ・体力アップシート利用率: 目標 %
- ・スポコン広場登録学級数: 目標 学級

①は「体力向上に向けた体育科授業の取組」を記載する。②は、小・中学校ともに「1校1取組」運動名、体力アップシート利用率の数値目標を記載する。さらに、小学校のみ、スポコン広場登録学級数の数値目標を記載する。

【あいさつ・そうじ・自学自習】

- ①
 - ②
 - ③
- ①は「あいさつ」、②は「そうじ」、③は「自学自習」の取組を記載する。
 なお、()には、それぞれの取組の「取組指標」を記載する。

基盤として大切にすること(本年度の重点)

【人権・同和教育】

(要綱P ~参照)

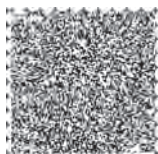
【特別支援教育】

(要綱P ~参照)

【キャリア教育】

(要綱P ~参照)

【人権・同和教育】【特別支援教育】【キャリア教育】について、本年度の重点取組を記載する。なお、()には、諸教育の全体計画、推進計画、年間指導計画を説明した学校経営要綱のページを記載する。



(記入例) 令和〇年度 ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する〇〇学校プラン

《学校の教育目標》

《本年度 学校の重点目標》

進んで学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成
よりよさを考え、みがきあう子どもの育成

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、他の学習や生活場面に生かすことができる。

【つくる力】

相手や状況に合わせて適切に表現し、お互いの考えを取り入れながら協働できる。

【つなぐ力】

めあてを達成する方法を決め、実行し、振り返りながら、あきらめずに挑戦しようとする。

【つらぬく力】

学びをつなぐ授業

- ①学力向上プラン「視点2」に記載
- ②ねらいや活動を絞り、情報を絵、写真、図、動作等で視覚的に示す。(国語・算数 毎時間)
- ③ ICTを活用して教材の提示、情報収集、写真や動画等による記録を行う。(週1回)
【成果指標】「授業で週1回以上コンピュータなどのICTを使用している」と答える児童の割合が80%以上
- ④教員のスキルアップ研修の実施と教材の作成(学期1回)、ペアで自分の思いや考えを外国語で伝え合う活動を行う。(外国語 毎時間)

笑顔の先生

- ①学力向上プラン「視点4」に記載
- ②会議の目的と人数・時間設定が適切かを見直す。(学期1回)提案資料はA41枚程度に減らし、事前配布する。(毎回)
【成果指標】「先生は分かるまで教えてくれる」と答える児童の割合が85%以上

協働する学校・家庭・地域

- ①地域学校協議会プラン「提言①」参照
- ②地域学校協議会プラン「提言②」参照
- ③学力向上プラン「視点4」に記載

楽しい学校

- ①「くるめアクションプラン」の初期対応を徹底する。(毎日)不登校対策委員会で、ケースに応じた対応策を検討し、全職員で共有する。(月1回)学校生活の状況や悩みを把握する児童・教員の2者面談を行う。(学期1回) 【成果指標】不登校数が2人以下、いじめの認知件数が10%増加
- ②児童会、委員会が主体となった「休み時間の安全な過ごし方・廊下の通り方」「けが人数と発生場所、原因」を伝える取組を行う。(月1回)
- ③児童主体で計画・運営する集会を開催し、自分や友達の活動のよさを振り返る活動を行う。(月1回)ペア・グループで考えを話し合い、相互評価する活動を行う。(毎日1回)

【体力向上】

- ①体育の時間のはじめに、持久力を高めるための3分間走や短縄跳びを行う。(毎時間)
- ②■■小学校チャレンジ広場(長なわ、ドッチボールラリー)、「1校1取組」運動
・体力アップシート活用率:目標75%
・スポコン広場登録学級数:目標6学級

【あいさつ・そうじ・自学自習】

- ①「あいさついっぱい運動」のアイデアを児童会で募集し、全校で実施・評価する。(毎学期)
- ②「だまってそうじ」を合言葉に、掃除後の振り返りタイムでよさを出し合う。(毎日)
- ③小中合同で「自学のしおり」を作成し、学年ごとのメニューにそって実施・評価する。(毎日)

基盤として大切にすること(本年度の重点)

- 【人権・同和教育】「人権・同和教育の視点に立った指導のポイント」を活用して、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を行う。(要綱P110~参照)
- 【特別支援教育】「困難さのある児童生徒に対する支援の充実のために」を活用し、同学年や特支コーディネーターによる協働的な支援を行う。(要綱P120~参照)
- 【キャリア教育】キャリアパスポートを活用して自己の伸びを認め合う。(要綱P140~参照)



(様式2)

令和〇年度 〇〇学校地域学校協議会プラン（記入例）

1 学校の課題

- 提言①** 家庭学習習慣の定着・強化のために、「家庭学習強化週間」を設定したり、地域ボランティアによる放課後学習を行ったりする。
- 提言②** メディアの使用時間を適切にするために、「スローメディア週間」を設定して「家族団らんタイム」を増やす取組を行う。

2 提言の実働化に向けた具体的な取組（3者協働の場合）

具 体 的 な 取 組			
	学 校	家 庭	地 域
提言①	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の学力の実態と課題を家庭や地域に説明する。 ○放課後学習の場を設定する。 ○家庭学習強化週間を設定する。 ○適切な量と質の家庭学習の課題を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での学習を行うような促しの声かけと学習課題を終えた後の賞賛を行う。 ○チェックシートにコメントや評価を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の保障と向上についての課題解決を図る必要性を広報する。 ○放課後学習への地域ボランティアの募集や派遣を行う。
提言②	<ul style="list-style-type: none"> ○スローメディアの期間を設定する。 ○スローメディアの取組の結果を集約し、家庭・地域に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビを消すなど、家庭で学習する環境を整える。 ○スローメディア期間において積極的に家族団らんの時間をつくる。 	/

※学校、家庭の2者協働の場合は、「地域」の欄に斜線を引く。

3 児童生徒の成長

